

令和3年第9回加西市教育委員会会議録

- 1 開会日時 令和3年9月27日(月) 14時01分
- 2 閉会日時 同日 15時14分
- 3 開催場所 加西市役所 1F多目的ホール
- 4 出席者 教 育 長 民 輪 惠
委 員 沼 澤 郁 美
委 員 楠 田 初 美
委 員 中 川 和 之
委 員 深 田 英 世

- 5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	植 田 正 吾
教育委員会次長(こども園民営化担当)	
	高 倉 慧 喜
教育総務課長兼給食係長	伊 藤 勝
教育委員会課長(学校施設担当)兼施設係長	
	井 上 英 文
学校教育課長	安 富 重 則
こども未来課長	丸 山 常 基
生涯学習課長	北 島 悦 乃
総合教育センター所長	工 藤 憲 人
図書館長	藤 川 貴 博
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ちあき

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移る。

- 6 付議事項

なし

- 7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

8 質問及び討議の内容

なし

9 議決事項

なし

10 報告事項

教育長

前回の8月24日定例教育委員会以降の報告をする。

同日夕刻には、県管理職一次試験受験者への激励会がまさにこの部屋であり、受験する皆様お1人お1人を励ましながら、受験票をお渡しした。

8月26日には、学校給食調理員等実技研修会を開催した。プロのイタリア料理のオーナーシェフを講師に迎え、栄養教諭や調理員の皆さんが、加西産トマトやたくさんの青大豆、ハリマ王にんにく、加西産の大葉などを使って、スープやソースなど比較的簡単に調理できるものにチャレンジをした。つまり発想を少し豊かにして、食材や調理の知識、技術を広げることにより、給食で実現可能なレシピの幅が広がったように思った。調理員の皆さんは、もともと料理がお好きで働いている方々なので、新しい調理方法と料理に出会い、目を輝かせ本当に楽しそうに調理している姿がとても印象的であった。地味な試みであるものの、このような地道な努力を継続することが、加西市の子どもたちのおいしい給食に結びついていくと思っている。

次に、27日には、泉中学校で加西市新任教員研修会が開催された。昨年及び本年4月から市立小中学校の教師になられた若い先生方20人が対象でした。研修第一部は、「夢の実現研修～教育長と語ろう～」というタイトルがついており、少し冷や汗ものの企画だったが、一応「いいですよ」と言ってしまったので、一生懸命させていただいた。そのとき、私は「いわゆる『いい先生』よりも、卒業しても記憶に残る先生になってほしい。先輩教師に従うだけでなく、自分たちの若い感性を信じて、そして、自分たちが大切にしたいものは何なのかということを見詰めて、前向きに発言しつづけてほしい」と挨拶をした。車座に丸く座り、20人の若い先生方と話し合いながら、つくづく「やはり若いエネルギーの中には、希望があるな」と私は思った。そういうものを大事にしていきたい。

打って変わって8月28日には、北条中学校羅漢ホールへ兵庫教育大学の日渡先生にお越しいただき、校長、教頭、管理職研修講座を開催した。こちらは大ベテランの管理職の先生方ばかりで、日渡先生の鋭い質問や、問題意識をきちんと浮き彫りにするような指導の下、具体的な例を前にして校長、教頭としてどのような判断をすべきな

のか。また、問題の本質をつかんでどのように対応すべきかというようなことをきっちり研修していただいた。皆さん、深い気づきがあったと思う。

8月30日には新しい社会教育委員の方々と懇談を行った。人生百年時代を迎え、生涯学習や社会教育の役割はますます重くなっている。いわゆる従来のやり方を踏襲するだけではなく、今、生涯学習や社会教育の分野で何が求められているのかという問題意識を持って、前向きに取り組みたいと考えている。

夏休み最終日、8月31日に定例校長会があった。実は一度申し上げたことかもしれないが、少し前に兵庫教育大学附属小中学校の校長先生が教育長室を訪問してくださったのだが、従来、大学教授が兼務していた教育大附属小中の校長先生を今年度からは公募され、その採用試験の論文課題は「附属小・中学校のイノベーション」だったということであった。この日の定例校長会では、この話をきっかけにして、米国フィラデルフィアに本社を置き、知的財産や科学データに関するコンサルティング業界では非常に有名かつ世界的なリーディングカンパニーである Clarivate という会社が、毎年発表する「世界で最も革新的な企業 100 社」についてのお話をさせていただいた。

というのは、つまり今やイノベーションを抜きにして、世の中の動きを語ることはできなくなっているということを感じ、分かっていたいただきたいといつも思っているからである。ちなみに Clarivate が 2021 年に発表した「世界で最も革新的な企業 100 社」の中には、皆さんご存じの Apple、Google、Microsoft、Facebook といった世界的企業がずらっと並んでいる。私たちにとっては権威と思われるそういう会社が、イノベティブカンパニーとして並んでおり、日本からは、高砂にも事業所がある AGC（旭硝子）や刈谷市の自動車エネルギー関連会社、アイシン精機なども選ばれている。これを見ても、電動化などクリーンパワーを根づかせようとする経済界の流れが、一目瞭然で見てとれると思う。

我々の日常はこうした世界的企業とは全く別世界である。及びもつかないというふうに思っているかもしれないが、そういう世界の動きと教育は決して無関係ではない。そういうことに、教育者としていつも着目しておかなければいけないのではないだろうかというのは、私がいつも思っていることであり、それを校長先生を前にお話させていただいた。

9月1日は加西市議会本会議初日だった。また、8日には STEAM 教育に関する教育委員会内の会議を行った。9日は本会議2日目、翌10日は本会議3日目であった。これは既に皆様も、議会中継等で十分ご承知の内容であり、またご確認いただきたい。

9月12日には善防中と加西中の体育祭が、保護者にもご観覧いただける形で開催された。

また、9月13日には、愛の光ナーサリー園舎お披露目会が行われた。ゼロから2歳児を預かる小規模保育所経営が昨年度に決まり、工事に入っていた。そこへ加西市内のこども園が名のりを上げられたことに、私はとても心強い思いで感謝している。

9月14日は総務委員会が開催された。

また、翌15日には播磨東教育事務所で管理職登用についてのヒアリングがあり、加西市教育委員会の要望をきちんとお伝えしてきた。ヒアリングとは違うが、その際の所長とのお話の中で、加西市が義務教育段階でSTEAM教育を始めようとしていることに、高い評価を頂いた。もちろん、まだ決まっていることではないのだが、「全国的なモデル校に選ばれる可能性もあるんじゃないでしょうか」というようなことを言及された。

STEAM教育というのは、現場の教師に分かりやすく理解してもらうために、わざと「従来の探究的な総合的な学習の時間と同じですよ」と説明する場合があるように思う。重要なことは、実はその総合的な学習の時間の場合と全く同じだとか、同列ということではなくて、STEAM教育というのは、従来から言われる論理的思考や批評的思考の重視にとどまるのではなく、アート部分で「デザイン思考」というものを最重視して、学びの在り方を変えていこうとしている点が大事なのだと私は思っている。そして、STEAM教育はいわゆるChromebookも含め、いろいろな最新のテクノロジーを導入しつつ、1人1人の人間を重視する。ある意味で、21世紀の新しいヒューマニズムにつながっていく教育だという点こそが、本当は大変重要なのだと私は考えている。単にプログラマーを育てるための教育ではない。皆様もぜひその本当のところをご理解いただき、応援していただければありがたいと思う。

9月16日には代表区長会が行われた。

また、17日には図書館協議会が開かれた。毎度申し上げることだが、図書館はあらゆる知恵の宝庫である。何かに興味を持ち、何かを知りたいと思う市民にとっても、大変貴重で重要な場所だと思っている。また、加西市の文化度を測る物差しの一つでもあると思う。誤解を恐れず言えば、私にとって図書館協議会というのは大好きな会議であり、この日も活発に議論が行われていた。どの委員会においてもそういうことが大事だと考えている。

そして、9月19日に市内小学校の運動会が開催された。前々日、大変な雨で1日順延された。1年半に及ぶ加西市コロナ対策本部会議が出した加西市の対策の方向性を踏まえつつ、教育委員会として行ってきた新型コロナウイルス対策をきちんと知恵に変えて、安全にかつ楽しい「with コロナ」の学校生活を確保することが大切だと考えている。我々教育委員会としての基本方針をご理解いただき、そうした観点から、中学校2校を除き小中学校全校が工夫を凝らし、保護者と共に体育祭、運動会を行えたことには、感謝の気持ちでいっぱいである。

9月22日には、まち・ひと・しごと創生推進本部会議に出席した。各部署からたくさん新しい創生推進のアイデアが出ており、そういうことをきちんとしていけば、加西市はもっとどんどん良くなっていくだろうと実感した。そして、夕方からは、佐渡裕氏指揮による兵庫県芸術文化センター管弦楽団のコンサートに、来賓としてご招

待いただき楽しんだ。

そして、24日は教育委員会の来年度予算について、教育長ヒアリングを行った。朝から結構おそくまでかかり、正直に言って大変疲れたが、やはり予算には来年度の教育委員会の方針というようなものが浮かび上がってくると思っているので、とても重要なことと思い取り組んでいる。

教育総務課長

加西市未来の学校構想検討委員会設置要綱について報告する。

当委員会は、加西市立小中学校の将来のあり方に関する計画を策定するため設置するものであり、市長の諮問に応じて望ましい学校教育環境のあり方について調査及び審議を行い、答申するものである。答申の内容は3点。加西の教育のありたい姿について、2つ目に小中学校再編の基本的な考え方について、3つ目に地域との連携による学校づくりについてである。

第3条では、委員は20名以内とあり、現在17名の委員を調整中。保護者代表、学校園、こども園長、学識経験者、行政機関職員、その他、市長が必要と認める者ということで委員を選任している。第4条の任期は、委員会の答申が終了するまでとしているが、当委員会は、10月1日施行から1年間、つまり来年9月30日までに会議を終え、答申する予定。できれば会議は2か月1回程度の頻度で行っていきたい。第1回目の会議は10月11日（月）午後2時、市民会館小ホールで開催予定。第2回目は12月20日（月）午後2時で調整中。

委員会庶務は教育委員会事務局にて処理する。会議については、あらかじめ教育委員会で資料作成をし、当委員会の同意を得た上で、当日資料を提出して各委員に検討いただくという流れで進めたい。会議終了後は、各委員からの質問や意見等のワークシートを提出いただき、次の会議に向けて回答あるいは資料作成を行っていく。

1年間ではあるが、精力的に進めていきたい。各委員には、ぜひともご協力をよろしくお願ひしたい。

教育委員からの質問と教育総務課長の回答

- ・先ほどの説明の中で要綱を見させていただいたところ、第1条から第10条の中に検討委員会の公開、非公開については書かれていない。分かる範囲でいいので教えていただきたい。

(回答) 会議については、委員会の了解を得た上で、会議録の公開をしていきたい。併せて会議そのものも、原則公開で進めていきたいと考えている。

- ・当委員会は「20名以内で組織する」とあり、今現在17名で調整されていると伺っ

た。例えば委員が欠員というか途中で欠けた場合など、補充内容はどのように考えているのか。

(回答) 委員の中には、区長会やPTA会長という役職の方がいらっしゃる。基本的に継続してお願いすることを考えているが、役職が変わることで新しい方に代わりたいたいという委員からの申入れがあった場合、新しい方に代わっていただくことで考えている。

・この委員補充についての内容は、要綱の条項の中に入らないということよろしいか。

(回答) 10条の中にはその内容は明記していないが、「この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、市長が別に定める」としており、今のように運用させていただきたい。

・定例会と同じように傍聴は誰でもできるのか。

(回答) 原則として会議は公開なので、どなたでも希望があれば傍聴可能である。

学校教育課長

まず、新型コロナウイルス感染症に係る各学校における対応状況について報告する。現在、感染症の拡大第5波により緊急事態措置が講じられているが、幸いにも市内16校において、いわゆるクラスターとしての集団感染、また、学級閉鎖等の対応を行うことはなかった。

緊急事態宣言については、9月末日での解除見通しが報じられているが、引き続き緊張感を持って各学校において対応していくよう指示、指導をしてまいりたい。

そうした中での各学校の教育活動については、教育長の報告にもあったが、9月中に市内小中学校体育大会、運動会など大きな行事が実施されたり、あるいは計画をされている。まず、体育大会、運動会については、教育委員の皆様へご都合のつく範囲での激励をお願いするご案内をさせていただいた。全ての小中学校で雨天のため順延となったが、教育委員の皆様にはご配慮いただき、ありがたく思っている。

開催方法について様々なご意見を頂いた。その一つ一つを真摯に受け止めてまいりたい。その上で各校が児童生徒、保護者、地域の願い、学校の規模や感染状況を鑑みながら、連日、職員会議やPTAとの相談、連絡を行いながら、下した決定は、ある意味、学校の特色や独創性を生み出すために保障していかなければならない部分だと考えている。その中、無観客で行った学校もある。もちろん各学校が判断を下すまでには、事務局からの客観的な情報提供や市の方針などをきめ細かく伝えていきたいと考えており、今回もそのようにさせていただいた。このあたりはどうかご理解とご協力をお願いしたい。それから、今後の方向性あるいは今回の決定の改善というか、よ

り良い方法に向かうようご示唆を賜ればと思っている。今後ともよろしく願っていたい。

続いて、8月の定例教育委員会でも報告したが、いよいよ10月1日、今週の金曜日から中学校の修学旅行が始まる。今のところ緊急事態宣言が解除された初日に、2校が出発する予定。先ほども該当校長に確認を取り、その方向で進め、せめて解除されるかどうかは前日に分かるので、緊急な場合は対応をするが、何としても今の感染状況が下り坂になっているこのタイミングで行きたいと考えている。本当に何とも判断しにくい状況が続いているが、運動会の開催方法も随分と我慢をして修学旅行に備えてきたわけなので、何とか行かせてやりたいという思いで学校も事務局も考えている。

そのほか、小学校5年生の自然学校が9月実施予定の学校は延期をしている。実施内容については、延期した学校も含めて、1泊2日及び通常の間隔による3日間の学習活動を当初の予定どおり、行いたいと考えている。

それから、小中学校の校内音楽会、合唱祭、特別支援学校の発表会、若葉フェスティバルについても実施の方向で考えているが、合唱祭というあたりから言えば、開催方法について昨年度に他市町でいろいろな事案があったので、かなり感染拡大を防げるような手だてを学校で考えていただいている。随時、この辺りについてもご報告できればと思っている。

それから、市の指定研究会、富合小、加西中、下里小学校での実施については、実は明日に3校の校長、研究主任、研究推進委員長を招集し、開催方法について協議をして、最終9月30日の定例校長会で決定してまいりたい。何らかの形で研究成果を発表していただこうと思っているが、事務局も含め教育委員さんが当日出席して行うかどうかは、今しばらく判断をお待ちいただきたい。よろしく願います。

それから、教育委員の計画訪問は、先月申し上げたとおり残る2回となる。予定どおり実施したいと考えている。ただ、園児、児童、生徒との距離を保ちながらの実施にご協力をお願いしたい。そういったこともあり、若干、集合時刻を変更した上で訂正した日程をお配りしている。少し早い時間の集合となり恐縮であるが、よろしく願いたい。

このように以前の「通常」の教育活動とは程遠い状況が、まだまだ学校現場にはある。ただ、この先については、「以前」に戻すという発想ではなく、これから子どもたちが将来の加西市や兵庫県、さらにはグローバルな視点から社会を担える大人となっていくよう、我々大人がしっかり見通していくことこそが必要だと考える。そのためには学習指導、生徒指導、進路指導の充実と推進のため、今こそ教師としての資質向上、教師力の向上は欠くことのできない課題だと認識している。

まず、昨年度から順次スタートした学習指導要領改訂の趣旨をしっかりと理解し、教科学習やSTEAM教育などを通して、加西市の目指す子ども像に近づけるように、学校と事務局が連携しながら教育の振興に努めてまいりたい。

そのためにも学校教育課では、慣習的に行ってきた学習活動、教育活動、学校行事について、「スクラップ&ビルド」の視点で業務改善の具体的な精査を今進めている。具体的な対応が整理できたら、ご報告申し上げたい。

また、あわせて STEAM 教育をはじめとする各校の特色ある取組についても、ご報告できればと思っている。どうぞ今後ともよろしくお願ひしたい。

こども未来課長

この間、市内各こども園でコロナによる学級閉鎖等の措置は行われなかった。

令和4年度認定こども園等の入所申込みについては、10月より始まる。変更点については、今年度10月1日に愛の光ナーサリーが小規模保育所を開園される。また、以前も報告したように、来年には定行税理士事務所の隣にもう1園、小規模保育園が開園する予定で進めている。申込みについては、一次申込みが10月11日から10月29日、二次申込みは2月ということで進めている。また、令和4年度変更点として以前にご説明したように、北条東こども園が公私連携園となる。

賀茂幼児園の土曜保育については、北条ならの実こども園で共同保育をする予定。賀茂幼児園では、実態として土曜日のほぼ半数以上で保育希望の方がいない。にもかかわらず、保育士なり、調理師なりが出勤している状況。厚労省の指導でも、土曜保育については実態に合わせた保育をしていいということで、また、厚労省の指針では、他園で共同保育をすることも構わないとあるので、効率性の観点を大きな理由として職員の労働環境改善のため、共同保育を行うこととした。現在、賀茂幼児園は土曜日午前だけの半日保育だが、北条ならの実こども園は、土曜日に1日の標準保育を行っている。それで、北条へ行けば1日標準保育も受けられていいのではないかと考え、候補を北条ならの実こども園として進めている。賀茂幼児園の先生1人が北条ならの実へ応援に行くことで、保護者に不安のないように対応していきたいと考えている。

施設一覧より、受入れ施設は本年度に引き続き公立4園、私立7園。小規模保育所はまず1園で進めていく。ここに来年オープンする1園が加わり、来年開園予定の1園については、年明けから募集を始める予定。

入所申込関係書類については、入所申込みについてのご案内ということで、9月1日から各園や市内のお子様がおられる家庭に事前配布をしている。9月13日、14日の2日間で相談会を開催した。来年の利用定員は、引き続き同数程度で1,200人から1,300人程度と考えている。3歳児以上は無償化になったため、3歳児未満の希望者が急増しており、小規模園については今後もう少し増やしていかないといけない状況になると考えている。

教育委員からの質問や意見とこども未来課長の回答

- ・入所相談会を9月13、14日に行われたそうだが、何人ぐらい来られたのか。
(回答) たしか両日実際に来られたのは十数名程度だった。
- ・話せる範囲で構わないが、どんな相談内容があったのか。
(回答) ほとんどが3歳児未満で入れますか、どうやったら入れますかという相談と、やはりお子さんが問題を抱えた保護者様の相談が多かったというふうに聞いている。
- ・これからも相談会はあるかもしれないので、そのときも丁寧な対応をお願いしたい。

生涯学習課長

令和3年度公民館まつりについて報告する。

毎年10月、11月にかけて、各公民館の主催講座と登録グループの講座生による学習発表会を「公民館まつり」として開催していたが、コロナウイルス感染症の拡大により、昨年度は中止、今年度についても6月頃から開催について何度も検討を重ねてきた。2年続けて中止になれば、登録グループの講座生のモチベーションを保てない、せっかく学習した成果の発表もないのでは、やはり活動している意味も見いだせなくなるのではないかと各公民館長もかなり懸念しており、今まで登録グループ代表の方々と検討を重ねてきた。

しかし、今年度も緊急事態宣言の発令やまん延防止等重点措置などに伴う社会教育施設の利用制限等もあり、コーラスなど、登録グループによっては、全て活動を休止されるところも多くあった。最終的に各館の登録グループ代表者と公民館で話し合いを重ね、従来の公民館まつりの形態では開催はしないということになった。

ただ、制限のある中ではあるが、これまで活動してきたグループ生の方々の成果発表を行うということで、作品の展示期間を決め、展示する作品を入れ替えるなどの工夫をしつつ、公民館で作品展示会を開催することとなった。

善防公民館、南部公民館、北部公民館での展示会については、10月広報に展示期間など詳細を掲載する。それぞれのところで活動されてきた書道や生け花、いろいろなちりめん細工などの作品の展示会が行われる。公民館のロビー、図書コーナー、体育館などを使って開催されるので、お近くへ行かれた際には、ぜひ足をお運びいただき、登録グループ生の作品を御覧いただければと思う。

また、中央公民館については、11月20日、21日に作品展示を行い、中央公民館に限り芸能発表も行う予定になっている。詳細については11月広報に掲載予定。中央公民館の芸能発表については、会場は市民会館の文化ホールで開催するので、ソーシャルディスタンスを保つことができるということで、一般の方々にも御覧いただきたいとのこと。

各館それぞれが今できることを注意を払ってやっていこうと決定したことなので、

ご理解を頂き、ぜひ作品展示等へ足をお運びいただきたい。よろしく願います。

教育委員からの意見

- ・お礼をお伝えしたい。本当に講座生の皆さんやグループの方と何度も何度もどういう形がいいのかということで話をしてくられたと今、課長からもご報告いただいている。本当にそのご苦勞は分かる。やりたいし、やっちゃってコロナが広がったらどうかというようなこともありながら、何度も何度も回を重ねて話し合い、現時点で一番いい方法を考えていただいたことに、改めて感謝を申し上げたい。

総合教育センター所長

令和3年度研修講座の中間まとめについて報告する。

令和3年度は、34コース46講座を計画し、受講者対象を小・中・特別支援学校、公立私立のこども園教諭としている。9月10日現在32講座が終了し、受講者合計は1,133名。受講後に取っている受講者からの講座評価は、現在5点満点中平均が4.61で、これまで実施した講座では高い評価を頂いている。

成果としては、喫緊の課題に対応した研修内容、要望や実績のある講師による研修、校内研修や教科担当者会と連携した研修など、学校現場のニーズに応える研修が行えた。また、校種や年齢の違う教職員または同世代の教職員が集まり意見交換することで、様々な考え方に触れ教職員が交流する機会にできた。あと、依然としてトラブルはよく起こってしまうが、コロナ禍においてオンライン研修の形が随分と整ってきた。

一方、課題としては、現場の声を大切に、講師、研修内容、研修形態、研修時期や日程などを現場に合った、現場が求めているものに依っていくことです。ICT教育をはじめ、新しい教育を進めていくために、今膨大な教職員の研修と準備と会議が必要となっているのは事実である。しかし、コロナ対応も含め日々多忙な勤務の教職員に対し、物理的な時間や労力、職員の多忙感をさらに上乗せすることは、現在求められる業務改善とは相反する状況のようにどうしてもなってしまう。

また、近年それぞれの学校の年間予定を見ると、目いっぱい行事が入っている現状であり、市内16校が参加できる40講座の日程調整は非常に大変なことである。さらに、教職員数の少ない小規模校では、研修や出張で教員が抜けることで学校運営が困難になる状況という問題も起こっている。

このように教職員の資質向上は不可欠で、私どもとしても受講してほしいと思う非常に大事な研修講座なのだが、現場や現状からすると課題は非常に多くある。我々自身もオンライン研修も含め効率的、効果的な研修を進めなければいけないと考えている。センターとして可能な限り早い段階で次年度の計画を提示し、少しでも学校現場の負担を減らしたいと考えている。

もう一つは、それにも関わることだが、今年度から新たに受講受付は、紙媒体からネットを利用し Teams で行った。実際いろんなことをチャレンジしてやってみたら、課題点がたくさん見つかっているのだから、改良して行って、学校現場とセンターの負担軽減や分かりやすく効率的な受付業務を目指していきたい。

教育委員会の意見や質問及び回答

- ここに沼澤先生がいらっしゃるのでお聞きしたらいいのかと思うのだが、事務職員研修講座というのは今までで初めての講座だと思う。何のための、誰に対する講座なのか。

(教育センター所長の回答) 事務職員研修講座は、以前から各校事務職員の要望を聞きながら継続的に行ってきた研修である。今年度は要望から研修内容を考え、沼澤先生にお願いしたいということがあったので、依頼をさせていただいた。研修は大変好評で、今後もまたお願いしたいと考えているところである。

- どのようなことを研修なさったのか。

(沼澤委員の回答) 少し委員という立場はのけて回答する。本来、共済といわゆる厚生年金、それから社会保険とは内容が少し異なっている。共済の事務担当者はその事務だけをされるのではなく、どうしても一般的な社会保険も扱わないといけない。ただ、それに対するしっかりとした知識を知りたいということで、今回は社会保険を全体的に雇用保険、厚生年金、健康保険にまとめて全体を分かっていたかどうかということで研修をさせていただいた。

- それは事務職員の方からたくさんお声があったのか。

(教育センター所長の回答) 直接的に日々の学校運営に関わることではないが、もやもやと分からないうちに業務を進めたり、答えたりしていたことで、どうしてもクリアにしたいと今回話があった。今申し上げたように、「知識が入ったことで、いろんなことが分かってスッキリした」とか、「今後の対応ができそうだ」というような感想が出ている。

- 今後もこれは続けられるのか。

(教育センター所長の回答) 事務職員講座や他の講座についても、どのような内容の講座を希望されるのか、アンケートを取っている。それを基に組み込んでいこうと思っている。

- 研修評価はかなり良かったと書かれていて、安堵した。それから、成果と今後の課

題については、きちんと書かれており、この点を今後さらに充実させていただきたいと思う。課題については、1から4まで書いてある。その中で研修講座の作成は、新年度が始まるまでの早い時期である必要があると書いてあるが、従来は大体どのような時期に研修が決定していたのか。

(回答) 先ほど「早い時期に」と言ったが、例えば今年度中に組めるかといったら、それは非常に難しい。というのも、講師先生方の立場や新しい年度の計画予定が決まらなければ、なかなか引き受けてもらえないのが現状だからだ。そう考えると、例年4月ぐらいから組み始め、全体的に了解を得て形になるのが6月頭で、6月頭でも全ては埋まっていない状況がある。今年度は、それを少しでも早く、決められたところから小出ししていこうかと。これはまだ決定ではなく、センターの中で話し合っていることである。少しずつでも組めたところから現場に下ろしていったほうが、助かるのではないかという意見で、「できる限り」という言い方をしている。

あと、評価については、非常に高い評価をもらっているが、少し見直しを考えている。私も研修を受けていた頃は、そうだったが、講師先生は本当に遠いところから来られて、大変ありがたい講座をしてくださるので、「ありがとうございます」という感謝の点数がどうしても入ってしまう。ただ、講座の中には、実は本来希望していた講座と違う趣旨の内容になっているものもあり、少し違うなという感想もある。しかし、点数だけは高い状態なので、来年度以降はその辺りをもう少し、講師先生への感謝を別にして、受講者に本当のところ今回の講座はどうだったのかということで、次年度に向けて役に立つ評価をしてもらおうと思っている。もしかすると来年以降は評価が下がることもあると思っているが、それを承知でやっっていこうと考えている。

- いい方向へ向けて改善するよう期待する。また、職員の方々の負担がないように、ご考慮いただけたらと思う。感謝を伝えたい。
- コロナで先生にもいろいろとご苦労がかかっていると思うが、以前の研修講座の内容を見ていたらChromebookやオンラインの講座が大分増えてもう1年がたつ。10日ぐらい前に、うちの息子が初めてChromebookを持って帰ってきたので、実際に学校でオンライン授業をしていることなど息子からいろいろな意見を聞いた。いい面も、悪い面もあるかもしれないが、1年でこれだけ進歩してきたというのは、やはり本当に感謝しかないと考えている。この前、教育委員の中の研修の動画を見させていただいたときに、先生の資質はものすごく上がってきているのだが、生徒の授業はなかなかまだ今からだというデータが言われていて、それに向けてもっともっと時間もかかると思うが、よろしく願いしたい。1年でオンラインができるところまでできて大変だったと思う。感謝の言葉だけ言わせてもらった。

1 1 協議事項

なし

1 2 教育委員の提案

なし

1 3 今後の予定について

- ・令和3年第10回定例教育委員会 10月19日(火) 14:00～5F大会議室
- ・令和3年第11回定例教育委員会 11月15日(月) 14:00～5F大会議室
- ・第2回総合教育会議 10月19日(火) 定例教育委員会後に開催予定

1 4 その他

- ・以前お願いした河内町の県道の街灯設置はまだのように思うが、予定は決まっているのか。

(総合教育センター所長の回答) 以前にも申し上げたが、教育委員会として危機管理課へ要望は伝えている。ただ、設置場所に関して、街灯によって稲の育ちが悪くなるなどで反対される地区が結構出ているので、該当地区の区長会やふるさと創造会議などを通して地元の了解を取らないといけないということ。それから、現場には電柱がないので、まず、電柱を立てることからしないといけない。しかし、危機管理課の市の財政からいくと、予算的には1年に1本か2本が限界であり、該当区間に電柱を立てるには何十年もかかることになる。区長会やふるさと創造会議を通して順次要望があれば設置をしていく。ただ、今のところその要望は、ほかの場所でも上がっているものの、そこについては上がってきてはいないという状況があるという。教育委員会としては、こうした意見があることを一応伝えており、検討はされていると思う。

- ・前回、伊藤教育総務課長より「電柱のところにつけます」とお聞きしたので、安堵していたのだが。

(総合教育センター所長の回答) 河内町の県道には電柱がなく、その周辺で電柱のあるところからなら、まだ安い費用で割と早急につくので、今年度中はそこに先につけていくことはやりますという返事をもらった。

- ・「電柱のあるところからつけていきます」ということなので、それは今年度中につけられるのか。

(総合教育センター所長の回答) そうである。ただ、河内バイパスには電柱はない。

- ・ 県道のところには電柱はないのか。
 (総合教育センター所長の回答) 電柱はゼロから立てていかないといけないし、電線自体を引いていかないといけない。県道には電柱はないという説明を受けている。
- ・ 旧道はもう街灯はついていると思う。だから、旧道ではなく県道のほうにつけていただきたい。何せ今から暗くなっていく季節なので、できたらたとえ1本でもはやくつけてもらいたい。
 (教育長の回答) 教育委員会が街灯をつけるのは不可能だと思う。やはり教育委員会としては、児童、生徒の安全を確保するために関係部署にきちんとした要望を出していくことになると思う。それでよろしいか。
 (総合教育センター所長の回答) そうである。小中学校の通学路は旧道を設定しており、その旧道には全て街灯がついている。それから、そうした要望を何度か担当部署を回って話をすると、高校生についてもできれば整備されている旧道に通学路を変更してもらいたいということが出る。ほかの通学路でも実はそういうことが出ていて、危ないところは、まず通学路の検討から入ってほしいということだ。先ほども言ったように、予算のこと、また我々だけがつけたいと言っても、現場の住民、土地を持っている人の了解が得られないとつけられないという説明であり、どの辺りが原因で止まっているかは分からない。
- ・ そうなると、高校生にそういうことを話していかないといけないのではないか。
 (教育長の回答) というよりも、むしろ地元からの要望を出していただくというのが正解なのではないかと思う。みんなが毎回ずっと言っていることだが、教育委員会としては、生徒の安全性ということで努力をして全部見回りをしたり、全部の危険箇所を図面に起こしたりと、かなりきちんとやっているように私は思っている。そういう資料を関係部署に提供しながら安全性確保のお願いはしている。それこそ今傍聴席に座っていらっしゃる議員さんや区長さんとかへ地元から要望が上がり、道路や電灯が整備されると私は思っているが、どなたかきちんとした回答を調べておいていただけるか。そういうことだろうと思う。
- ・ 少し区長会のほうから言えば、よその地区については分からないが、九会の場合は、例えば大体各校区で30基、市内全体で300基つけるぐらいの予算を確保したのでつけてくださいということが市から代表区長へ下りてくる。それで、うちの町としてはどうしようということで、町別の懇談会で付け替えとか、どこが危険か、通学路の危険箇所、ここはやはり防犯灯をつけてほしいとか、できたら信号機をつけてほしい、横断歩道を引き直してほしいとか、そういうことは地域から気がつく。当

然、PTAや安全会の方、学校の先生などからも危険箇所というのが出てくる。そこで話をして、それでは頼むとなると、どちらから頼もうか、学校から頼んでもらったほうがいいのか、区長会として頼むほうがいいのかを話し合うようにしている。

実際、加西中から飛行場のほうへ行く南側のところは、今大分変っているが、南側は防犯灯がついている。逆に、富合のほうへ、朝妻のほうへ行かれるところが、河内町とそれこそ同じような状況で電柱がない。通学路については、以前は村の中を通っていて、電柱もあり、防犯灯もついていた。だが、村の中を子どもたちが通るのはやはり危ないからといって、今は広い農道を通るようになったが、そこには電柱がない。それで、とにかく電柱を立ててほしい、防犯灯をつけてほしいということは区長会からも、PTAからも要望するようにしている。それが実現するかどうかは、危機管理課の今後の対応のところだと思うが、もういろいろなところから声を上げていかないといけないのではないかというふうに思う。

- うちの賀茂地区も全く一緒である。市からこの予算でこれだけ電気をつけますということが下りてくると、それに対してどこにつけようかということで、区長会からPTAや学校のほうへ尋ねる。そこで、登下校をするならそこにつけましょうかというふうに、要望を聞いてつけるように賀茂はなっている。電柱がないところは当然つけられないが、賀茂地区では暗くて電柱があるところはもうほぼ街灯がついている状況である。去年だけでも、うちの地区では中学生が下校する暗いところで、結構 30 から 40 本ぐらい電気をつけている。やはり区長会と学校で話をして、つけられるところはもうつけようという話で、毎年している。やはり今年も区長からどこどこにつけるかちょっと考えておいてほしいと役員に振られた。そういう状況で、賀茂地区ではそういう意見を一応聞いた上で、オッケーだったらつけていくという感じである。少し参考にお話した。
- できたら河内のところよりも、明楽寺の峠のところは真っ暗なので、そこをつけていただけたほうがと思うが、あれは加西とは違うかと思う。せめて河内の県道のところをつけていただけたらと思うのだが。大変だと思う。よろしくお願ひしたい。
(教育長の回答) であるから、つけていただきたいとここで言っても、教育委員会として要望はもう十二分に出している。また、それを改めてしてということだろうか。
(総合教育センター所長の回答) 今あったように、所属がつけると言っても、区長会やふるさと創造会議の現場の声でないといつけられないという回答である。それと、先ほど言ったように、もしつけるとなっても、現状は予算的に年間 1 本か 2 本ずつと、少しずつしか設置できない。難しい感じである。
- 1 本ずつでもありがたい。

(総合教育センター所長の回答) 現場の区長会から上げてもらったほうがつくことにつながると思う。

(教育委員の回答) そのほうが早いかもしれない。PTAから上げてもらってきついようでも、区長会に言えばぱっとつけてもらえることもあると思う。

(教育長の回答) とにかく子どもたちに何かがあってはいけない。そのために、それぞれの部署が最善の努力をするということで、よろしいだろうか。

- ・運動会のお礼についてお伝えしたい。運動会に参加させていただいて、本当にありがたく思っている。無観客または観客ありのどちらでも、学校のトップである校長先生が子どもたちや家族の方々のことを一番に思い、悩みに悩んで出された判断は正しかったと思う。

小学校は勝ち負け関係なくかわいくて、かわいくて仕方がなかった。目を細めるばかりで、親御さん、おじいちゃん、おばあちゃんに見せて差し上げたかった。うれしかったと思う。中学校2校は無観客だったが、それでも両親が見てくれているかのように、しっかりと真剣に頑張っている姿はとても立派だった。私は動画だけでもせめて見せて差し上げたいと必死で撮っていたが、私一人で見るのは本当に申し訳なかった。皆様の思いを背に一生懸命応援をさせていただいた。子どもたちの成長をたくさん見せていただき、本当にありがたく思っている。コロナ禍で頑張られた先生方にも拍手を送りたいと思う。本当に感謝をお伝えしたい。

- ・私も同様にお礼をお伝えしたい。私は加西中の体育祭に行かせていただいた。入場行進というか、自分たちのテントから直接前に集まってきて、その段階で1番のプログラムであるラジオ体操の隊形になっている。そして、最初の言葉は校長先生ではなく、生徒会長が挨拶をして、「コロナ禍の中、私たちにこんな発表の場をつくっていただき、ありがとうございます」という感謝の言葉から始まった。私はそれを聞いて感動し、後の演技はずっと大丈夫だと思った。校長先生も、「例えばムカデ競争などをやらせてあげたかったけれども、今年はやはり無理なので」と苦慮される中で、でも、いろいろな工夫をして子どもたちが楽しめるものをしていただいた。いい体育祭を見させていただいた。

小学校については、どうしても子どもたちに先生方の手がかかるなと思って見させてもらったが、やはり先生方は子どもたちがきちんと動けるよう配慮されていた。それと、感染が心配される中で「もしも」ということがあってはならないので、できるだけ場所を広く取るというような配慮もしていただきながら、子どもたちの頑張りを見させていただいたことは、ありがたく思っている。改めて感謝の言葉をお伝えいただけたらありがたい。

- ・私も中学校と小学校に行かせていただいて感謝している。中学校は善防中へ、小学校は賀茂と下里へ行ったが、たまたま賀茂小学校でお会いした安富学校教育課長から「どこか他にも大きいところへ行っても面白いよ」というようなことを聞いたので、初めて北条東小学校の運動会も拝見させていただいた。

中学校はコロナ対策で、出席は各家族1人と言われていて、やはり少し寂しい思いなどがした。小学校のコロナ対策では、最初、テントを張らないと聞いていたので、「いい天気だし、大丈夫なのかな」と思っていた。小学校3校を回ったが、やはり3校ともテントなどは張らずに、学年ごとに譲り合いながらしっかりコロナ対策をされていた。また、各家庭のお父さんお母さんもルールを守って観戦されていて、きちんとコロナ対策をした運動会が行われているという印象が残った。

一番印象に残ったのは、北条東小学校だったかと思うが、小学校6年生の子が聖火リレーの競技を考えて、半分のペットボトルを聖火のように持って、そこにボールを入れていた。横で校長先生が少しSTEAMを入れたような競技をやっていると言われていた。それが一つずつ浸透して、これからの運動会でもSTEAMが浸透していったら、おもしろい運動会、体育祭になるのではないかと思った。一番心に残っている。

また、来年以降も、できるだけいろんな小学校を回りたいと思う。本当にこうした機会を与えていただき、感謝をお伝えしたい。

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和3年9月27日

出席者

(出席者署名)